

# 全国協議会 ニュース

2011年10月1日発行  
第232号

発行所  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク  
推進連絡協議会  
〒160-0005 東京都  
新宿区愛住町23-1  
Woody21-9階  
TEL.(03)3356-8217  
FAX.(03)3356-8637  
発行責任者:中野勝博  
http://www.marow.or.jp/  
E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座  
00150-4-15754  
銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655

## 被災地で基金広報活動を展開

4月5日に新たに創設した「東日本大震災被災患者支援基金」の、被災地の方々への周知を目的として、9月12日(土)の5日間、青森県・岩手県・宮城県・福島県・茨城県・市町村役場、がん拠点病院、報道機関等64箇所を、全国協議会の理事ほか8名が手分けをして訪問し、基金の趣旨の説明をした上で、周知および、患者さんやご家族への案内などを依頼しました。



被災からの復旧には、大変な努力と時間が必要でしょう。私たちにできることはわずかではあります。息切れすることなく支援を継続し、必要な時に支援できる柔軟な組織として、時には立ち止まりながらも、歩みをとどめることなく活動を続けていくことが大切だと思っています。

被災して経済的に苦しिताめ躊躇している患者さんに、安心して治療を継続していただくために、これまでも様々な方法で周知を図ってきたつもりでしたが、やはり情報が十分に行き届いていない状況がうかがわれ、これからはいろいろな手段を用いてPRを継続していかねければならないと強く感じた数日間でした。

訪問に当たっては被災した各地の加盟団体の方たちのご



協力をおおき、行政の窓口や病院の医師の方たちにお引き合わせいただいたおかげで効果的な訪問を行うことができ、感謝に堪えません。

また、病院の医療相談室などのご担当者からは、血液疾患の患者さんへの支援の少なさと経済的な苦しさについて、この基金のみならず、さらなる支援の必要性を教えていただき、高額療養費問題、薬価



## 「あり方検討会議」スタート!!

かねてより、全国協議会の組織・運営・運動のあり方を見直し、改革を推し進めることの必要性が叫ばれていました。

6月の大垣での総会議決を経て、改革のための検討会議を設置すべく、理事会で準備を進めてきました。メンバーの公募には応募がありまして、この度検討会議のメンバー5名が決定し、中野理事長より委嘱いたしました。

9月23日の第一回会合を皮切りに、今後、月一回のペースで会議を開催し、来年2月

までに答申をまとめていただきます。

全国協議会のあり方について、取り上げるべきテーマや問題点、改善すべき点、具体的な要望などご意見がございましたら、文書かメールで事務局までお寄せ下さい。責任をもって検討会議のメンバーにお伝えいたします。

検討会議メンバーは次のとおりです。  
陽田秀夫、二見茂男、吉永忍、黒部光司、名川和志(順不同、敬称略)

## 学会主宰、CTC研修会開催の意義

日本造血細胞移植学会では、CTC(クリニカルトランスプラントコーディネーター)研修会を、来る11月12、13日に開催します。

CTCとは、聞きなれない言葉ですが、「造血細胞移植臨床コーディネーター」と訳され、これまでも国内数か所の移植施設でコーディネーター職という立場で活躍されてきた方をご存じの方もおられると思います。学会としては、資格化、認定化されていないこの専門職を、社会に広

く認知される職種として確立、普及させたいとの考えから、CTCの雇用拡大を目指して活動を展開してきたようです。

患者ならびに患者家族と移植医療者、また造血細胞バンクとの連絡調整など、移植医療が日常化した現代においては移植コーディネーターの役割と期待は益々大きく、重要になると思われます。全国協議会としても、患者支援の観点から、この職種が制度化されるように後押しできればと考えています。(三田村)

## 将来にむけて 2011広島発 さい帯血バンク推進全国大会

9月17日、広島大学医学部広仁会館において、日本さい帯血バンクネットワーク(NW)の年次大会が開かれました。

第1部の式典に続き、第2部の年次報告では開催地からこれまでの中四国での活動を、骨髄バンク設立から関わられたいさい帯血事業にもご尽力された土肥代表がお話しされました。

第3部は、「今だから見直そう、さい帯血バンクの危機管理」と題して、東日本大震災の被害を受けた宮城さい帯血バンクの状況報告、元東京都危機管理監・中村晃靖氏による「危機管理のあり方」、そして「さい帯血バンクの危機管理」と題して、平成16年にまとめられた危機管理マニュアル作成指針の報告、そして報告メンバーによるパネルディスカッションもありました。

NWの危機管理マニュアルは作成指針が提示されたまま各バンクまかせになっていたようですが、実際には、今回の東日本大震災の現場において、宮城さい帯血バンクでは、事務所内は資料が散乱し大変な様子でしたが、保存タ

ンクはタンク同士がつながれ下にはキヤスターがついていたことで免震作用が働き、倒

れなかつたとのこと。またNW事務局もすぐに各バンクの被害状況を確認し、骨髄バンクとも連携し、実際にドナーの状況確認がとれなかつた2例についても、緊急コーディネーターも行われたとのことでした。災害時以外の状況も含め、危機管理のプロである中村氏からは更なる改善点も指摘され、よい勉強の場になりました。

昨年の神奈川脐帯血バンクの日赤東京さい帯血バンクへの統合に続き、中四国脐帯血バンクは今年度をもって解散が決まっております(現在保存されているさい帯血は福岡に

移管される予定)、全国に11あったバンクが9つになります。これは、さい帯血事業を日本赤十字社の事業として実施していく方向が示されたことによる結果です。将来構想

検討会が出した「中間報告」の中でも、安定した事業運営のために、骨髄バンクも含めた造血細胞提供システムの将来像も提案されているとのこと。年間の移植数が千例を超え、月間でも骨髄バンクをしのぐ月もあるさい帯血バンク事業が、更なる発展を遂げ、一人でも多くの患者さんの救命につながるように、私達ボランティアも一緒に学びながら、必要とあらば関係各所への働きかけという形で協力していきたいと考えてはと大会

## 東日本大震災被災者支援基金

8月21日~9月20日(合計3,417,251円)

骨髄バンクを支援する会(いわき)

現金	300,000円
黒田 多喜男	現金 5,000円
嶋津 桂子	現金 3,000円
匿名	現金 1,000円
(敬称略)	

給付累計件数 8件 合計1,489,900円

基金積み増しにご協力ください  
●郵便振替(通信欄に震災支援と記載)  
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
00150-4-15754  
●銀行の場合  
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
ゆうちょ銀行 008店 普通 4799951

## 心からのご寄付に 感謝申し上げます

8月21日~9月20日

黒田 多喜男	現金	5,000円
塩谷 圭	現金	1,000円
奥谷 麻子	現金	1,380円
飯島 孝枝	現金	2,240円
山崎 三重子	現金	2,000円
折橋 尚道	現金	10,000円
匿名	現金	10,000円

### ●白血病患者支援基金

会津テニス協会・丸善商事株式会社・ゼビオスポーツ株式会社	現金	50,000円
マリン歯科	現金	2,780円
有限会社スパゴ	現金	7,045円
とがし薬局	現金	11,345円
ルーテック・サクライ	現金	17,172円
メディコ古川店	現金	3,324円
隈井 芳彦	現金	2,350円
掛谷 泰章	現金	3,000円
菅原 春美	現金	2,127円
島津 桂子	現金	3,000円

### ●佐藤さち子患者支援基金

松下 善勝	現金	100,000円
トリイ コズエ	現金	10,000円
(敬称略)		

### 活動資金の援助をお願いします

銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655  
郵便振替口座  
00150-4-15754  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会



20年間の皆様の活動に  
僕は命を救われました。  
プロスノーボーダー 荒井 DAZE 善正

骨髄バンクがあったから、今ここに僕がいます。そんな僕にできること。愛するスノーボードをとおして、若い人たちにもっと骨髄バンクを知ってもらおうイベントを企画しました

日時: 11月12日(土)~13日(日)  
場所: 代々木公園  
URL <http://www.sbpif.net/>

# 大谷貴子さん 10年間おつかれさまでした

8月28日夕刻、まだまだ残暑厳しい東京都内にて、大谷前会長を囲んで「大谷貴子さん感謝のつどい」が催されました。

骨髄バンクのボランティアに関わっている方ならば、大谷貴子さんの名前を知らない人はいないでしょう。

20代で発病され病に打ち勝ち、その後骨髄バンク設立と発展のため、青春をなげうってといつても過言ではないくらの時間を活動に奔走された大谷さん。全国協議会の会長としての10年間も、全国津々浦々へ精力的に講演へ行きながら、患者さんを励まし、ボランティアの仲間たちと一緒に泣いたり笑ったり……

今年の全国大会で会長を退任され大変驚かれた方も多いと思



います。退任後もこの運動を個人の立場でこれまで以上に細やかに続けてくださいますが、この機会に大谷さんに感謝の気持ちを伝えようと、これまでご協力くださった多くの顔ぶれが集まりました。

オープニングは首都圏でのチャリティコンサートで存じの方も多いサント・フロリアンの小澤・三戸夫妻の演奏で始まり、次々に参加者の皆さんが大谷さんとのこれまでのエピソードや感謝の言葉を壇上で披露されました。活動初期の頃にお世話になった方や、元気に成長した姿を見せに来た患者さんもおられ、同窓会のようにもありました。

当日いつもの満面の笑みで参加者への挨拶をする大谷さんの言葉の中で「感謝してくださいって感謝します！」との一言は印象的でした。

多くの方に慕われている、みんなの大谷さん。

でもご家庭をお持ちの身です。ご主人のご理解とお母様のご協力に甘えつつ……これからもよろしくお願います！

会の主催は呼びかけ人型式でしたが、ほぼ「公的骨髄バンクを支援する東京の会」の皆さんがご準備くださり、華やかな中にも手作り感のあるあたたかな会でした。(仲本)

## 各地の たより

### 鳥取 4年目の移動窓口登録 固定窓口の実績に匹敵

鳥取県は大きく東・中・西部の3地区に分れますが、献血の固定窓口は東部の血液セン

ター・西部の献血ルームのみで中部地区に固定の献血窓口が無く、血液センターでは、週1の倉吉保健所受付と、献血バスを毎月最終日曜に倉吉市の未来中心記念館前に配車して、骨髄バンクのドナー登録に対応され

### 各地のたよりを 写真を添えて お寄せください。

タリ・西部の献血ルームのみで中部地区に固定の献血窓口が無く、血液センターでは、週1の倉吉保健所受付と、献血バスを毎月最終日曜に倉吉市の未来中心記念館前に配車して、骨髄バンクのドナー登録に対応され



そこでの骨髄バンク献血併行登録会の月例開催も、4年目を迎えています。県内の固定窓口の新規登録者数は毎年50名前後(1か月3〜5名程度)ですが、ここでは固定窓口とほぼ同数の登録者が毎年得られています。イオンや大学祭・航空祭など大口の登録者が得られる登録会も魅力ですが、3年を経過しても新規登録者が安定して得られる毎月定期開催の登録会もまた、鳥取の会のイベントには欠かせないものとなっています。(加登脇)

### 千葉 ジャグリングも大活躍 普及啓発に募金活動

9月11日に恒例の三井化学秋祭が市原工場であり、9人の仲間間で普及啓発と登録説明会を行いました。

この祭りには十数年来参加していますが、会社も支援してくれています。



被災地復興を願う  
いのちの輝き展開催

宮城県石巻市

大津波により自宅と宮城の会石巻支部20年のあらゆる資料データが大きな打撃を受けました。

でも「さつと」の笑顔の写真だけは妻の実家にあり無事でした。あの悪夢の3月11日の東日本大震災から6か月、まさかイベントを開催できると思いませんでした。これまで2回の「いのちの輝き展」イベント

## 心の声

### 母が骨髄を提供して(その2)

菅野侑臣さん

幾度かの検査を経て、10月に手術があるという事で母は病院に行きました。腰にいくつもの穴を開けて、骨髄を採るという話でした。私には気が遠くなるような話でした。人の役に立つことを出来るという事は素晴らしいことだと思えます。しかし、そこまでの自己犠牲を払えるか、高校3年となった今でも、私には自分出来るようには思えません。身内びいきもあるか

## 共催イベント 北から南から

をイオン石巻で行なう予定でしたが、関係者が一度途切れると立て直すのが大変だからと強力な後押しをして下さり、9月10日から10日間開催しました。今回の展示はあやちゃんの贈り物マモのメッセージ、さつとのお写真写真展でまさに大きな犠牲を出した被災地石巻でのいのちの大切さ、いのちの尊さを訴えたい大きな感動を得ました。三陸沿岸はまだまだ復興には程遠いことですが、ぜひ被災地支援のため石巻、気仙沼方面に足を運んでください。

また私たちが避難所生活の時、支援いただきました全国の皆様はこの紙面をお借りしまして御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

それと全国の仲間がぜひ石巻に行きたいということで全国協議会の支援も私たちに託して忘れることができないイベントになりました。(小野)



も治療により回復したそうです。骨髄の回復が感染の治療を助けたのではないかとのことでした。その後リハビリなどのため東大病院に転院されましたが、間もなく死亡されました。被曝後211日でした。

治療にあられたら、山下教授の感想としては「移植で骨髄は回復しても、他にも損傷を受けているので、治る見込みは厳しい。このような高い被曝は避けられない」とのお話でした。お話を伺い、広島、長崎で被曝された方々のことを想い心が痛みました。

### 医療講演会参加レポート 東大医科附属病院 第13回市民公開医療懇談会 「致死的線量による急性放射線障害」

8月31日のテーマは「12年前の東海村放射線臨界事故被曝患者さんの治療を振り返って」との副題で、先端診療部 山下直秀教授による講演でした。

皆様ご存知の12年前の事故時、3名の方が大量の中性子線を浴び、うち致死的な線量である、推定6〜10シーベルトの被曝を受けた1名が治療のため医科病院に搬送され、ただちに、浅野教授をチーフにした医療チームが編成されたそうです。

骨髄移植が必要でしたが、ドナーが見つからないため、臍帯血移植が井関医師(現千葉大)担当で行われました。移植は成功し、骨髄は回復に向かいましたが、皮膚の損傷がひどく苦痛が強いため、皮膚の移植がドナーから行われました。こちらにも回復に向かいましたが、口内粘膜などの損傷もあり、肺炎を起こしてしまいました。これが

### 骨髄バンクの最新情報をお知らせする-骨髄バンクNOW

(財団マンスリーJMDF (9月15日発行)より抜粋)

●「骨髄バンク20周年記念全国大会」について  
骨髄移植推進財団は、本年12月18日に設立20周年を迎えます。これを記念して、関係者及び一般の皆様を対象とした、「骨髄バンク20周年記念全国大会」を実施します。

第一部式典の「感謝状贈呈」では、これまで骨髄バンク事業に特に貢献いただいた団体・個人の方に感謝の意を表したいと思います。また、今回コーディネーターと地区普及広報委員・説明員の表彰規則を制定し、コーディネーターについては15年以上、地区普及広報委員・説明員については10年以上の活動期間がある方を対象に、表彰を行う準備を進めています。

第二部では骨髄バンクの20年の歩みを振り返る企画や、骨髄バンクに関する様々な方が登場し、エピソードなどを語っていただくイベントを企画しています。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。  
日時：12月17日(土) 13:00~16:30  
場所：東商ホール(東京都千代田区丸の内3-2 東京商工会議所ビル4階)

●献血ルームの月間登録者数が600人超 ~ 埼玉県緊急雇用事業 続報 ~  
先月、緊急雇用創出基金委託事業による骨髄バンク支援(献血ルームへの説明員派遣)の再開をお伝えした埼玉県で、献血ルームにおける8月のドナー登録者数が606人に上りました。

全国の赤十字固定窓口(献血ルーム・血液センター)における月間登録者数が1,535人ですので、そのうちの約4割を占めることとなります。

●ワースト脱出! 群馬県で献血併行ドナー登録会が本格化  
NHKテレビ「欽ちゃんのワースト脱出大作戦」(8月19日放映)でドナー登録者を増やすための取り組みが紹介された群馬県ですが、自治体や群馬県赤十字血液センター、ボランティアの方々のご尽力により、順調に登録者を増やしています。7月15日 東吾妻町役場献血会場を皮切りに、9月前半までに7件の献血併行ドナー登録会が行われ、66人のドナー登録がありました。

■8月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム / 1,535人、献血併行型集団登録会 / 1,870人、集団登録会 / 25人、その他 / 94人

◆日本骨髄バンクの現状(平成23年8月末現在)

	7月	8月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,183	3,524	389,298	510,526
患者登録者数	228	277	2,913	33,731
骨髄移植例数	104	103	-	13,279
20歳未満ドナー登録者	-	141	15,532 <sup>*1</sup>	-
51歳以上ドナー	255 <sup>*2</sup>	185 <sup>*3</sup>	23,990 <sup>*4</sup>	-

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。  
\*1) 17年3月~ \*2) 51歳以上ドナーの延長数 \*3) 51歳以上ドナーの新規登録数 \*4) 17年9月~